

ICT活用授業実践報告書

【 H24年度3年目研修 】

実施学年	2年	実施教科 (科目)	音楽	実施日	H24. 8. 30
単元名	はくによってリズムをうとう				
本時の内容 (項目)	山のポルカ				
本時の目標	「山のポルカ」の様子を思い浮かべ、2拍子のリズムを感じながら歌うことができる。 「山のポルカ」を鍵盤ハーモニカを使って演奏することができる。				
授業場所	音楽室	ICT活用時の 授業形態	一斉学習・個別学習		
ICT活用場面	導入・展開・まとめ		ICTの主な 活用者	教師 ・ 生徒	
活用するICT 機器	CD 電子黒板 iPad 実物投影機 (デジタルカメラ)				
ICTを活用する 目的・ねらい・予想される 効果	<ul style="list-style-type: none">・画像と楽譜を見せることで、「山のポルカ」の様子をよりイメージしやすくすることができる。・上手な児童の手本をその場で見せることができる。・一人一人の様子を記録し、評価したり活用したりすることができる。・鍵盤の指を実際に見せながらわかりやすく指導することができる。				
児童生徒の情報活用能力を 育てる指導場面・指導内容					
利用するコン 텐츠名・サ イト等	自作教材				
参考にしたサ イト・文献 等					
事前の準備	自作教材作り 電子黒板とiPadの準備				

指導計画（授業の展開）	<p>1. 動きと歌詞を電子黒板に示し、「手のひらを太陽に」「この空とぼう」「いるかはざんぶらこ」を歌う。</p> <p>2. 「山のポルカ」を歌い、課題を設定する。(iPad で撮影)</p> <p>ばめんのようすを思いうかべながら、リズムにのって山のポルカをえんそうしよう</p> <p>3. 電子黒板で「山のポルカ」の歌詞を示し、歌詞の意味から場面の様子を交流する。(電子黒板に板書) (1 番・2 番)</p> <p>4. 交流したことからどのように歌ったらよいかを考え、交流する。(電子黒板に板書)</p> <p>5. 交流したことに気をつけて「山のポルカ」を歌う。リズムをとりながら歌う。(iPad で撮影し、評価する。)</p> <p>6. 「山のポルカ」を階名唱で歌う。</p> <p>7. 鍵盤ハーモニカで「山のポルカ」を演奏する練習をする。(楽譜と鍵盤を電子黒板で映し、教師が鍵盤に指を置きながら演奏の指導をする。) 余裕があれば iPad を使って演奏する。</p>	（※情報モラルの指導内容）
ICT を活用した授業時の教師側（指導上）の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT が使えるよう事前に準備をする。 ・ 教師は ICT を使うだけでなく、実際に歌ったり演奏したりする。 ・ 撮影したことだけでなく、一人一人の歌い方や演奏の仕方など児童の生の姿も評価できるようにする。 	
ICT を活用した授業時の児童生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲を覚えていない児童は教科書ばかり見てしまっていたが、前で見せることにより、全員が前を向いて学習することができた。 ・ 全体に前でやってみせられるようになったことで、鍵盤ハーモニカを正しい指づかいで演奏することができる児童が増えた。 ・ 楽譜や歌詞、挿絵などを映すことで、歌い方のイメージを膨らませることができた。 	
ICT を活用した授業後の評価（実践の手応え）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「パソコンで作って印刷し、拡大して使う」という手間が、「パソコンで作って使う」となり、時間短縮できた。 ・ 場面をさっと切り替えることができることで、歌唱から器楽へとスムーズに授業を展開することができた。 ・ 実際に実物投影機やデジタルカメラを使って児童の様子を見せながら歌わせることで、より上手に一生懸命に歌おうとする児童が増えた。 	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材を用意していても、機械の不調や他の学級と使う時間が重なってしまったといった場合に使えないことがあるので、ICT 設備をさらに充実させていきたい。 ・ 教材作りに時間がかかるため、長期休暇を利用して作ったり、他の教員と連携してたくさんの教材を用意したい。 	

※情報モラルを指導したときは、その指導事項及び指導内容を記入する。